

壊されない

今日の力

2012年8月13日～8月19日

翻訳 鶴 沢 未 央
(大みかキリストの教会)

編集 岩 田 欣 三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

聖書朗読 IIコリント 4:7～11

私たちは、この宝を、土の器の中に入れていたのです。それは、この測り知れない力が神のものであって、私たちから出たものでないことが明らかになるためです。私たちは、四方八方から苦しめられますが、窮することはありません。途方にくれています、行きづまることはありません。迫害されています、見捨てられることはありません。倒されますが、滅びません。

IIコリント 4:7～9

使徒パウロは船の遭難、投獄、暴行など困難を極めた宣教旅行をしていました。彼のメッセージはいつも受け入れられたわけではありません。もうやめた、とあきらめたほうがどんなにか楽だったことでしょうか、彼は四面楚歌のような状況になっても決して倒れたり、打ち負かされたり、滅ぼされたりしないと誓ったのです。

ジム・ドストンという28歳の若さで召天した伝道者のことを思います。コリー・テン・ブームという第二次世界大戦のときユダヤ人を助けた罪で投獄された若い女性を思います。エリザベス・エリオットという夫を現地で殺されてしまった女性を思います。この中のだれもが、打ち砕かれてしまう可能性にありながらも、そうはならなかったのです。

ジムは、自身の葬式で、あらかじめ撮られていたビデオで語りました。このビデオで、彼は失われた魂に起こった福音の物語を語り続けました。コリー・テン・ブームと姉は送られた先の収容所でイエス・キリストについて話しました。エリザベス・エリオットはご主人の命を奪った原住民がいる村へ向かったのです。

あなたにはどれだけのプレッシャーがありますか？ 打ち倒され、押しつぶされそうなどざりざりの状況になっていますか？ でも、あなたは見捨てられてはいません。ですから、気落ちしてはいけません。あなたの力は神様からくるのです。

讃美歌 第二篇 57

祈り 親愛なる主よ、迫害があるようにと祈るのではなく、クリスチャンが強くされ、世に打ち勝つ信仰を与えてくださるよう、復活のイエス・キリストを知ることができますようお祈りします。
主の御名により祈ります。アーメン。

ジョイス・ハーディン
テキサス州 ドリッピングスプリング

霊的であること

聖書朗読 ガラテヤ 5:16～26

肉の思いは死であり、御霊による思いは、いのちと平安です。 ローマ 8:6

もっと霊的になりたいと望んでいますか？ 霊性を高めるひとつの方法をパウロがガラテヤ書5章に記しています。彼は霊的な人と肉적인人の特徴を明らかにしています。別な言い方をすると、肉の思いによって生きる人の特徴を挙げ、そしてその後、霊的な人がどのようなものであるのか、前者と対比しつつその特徴を挙げています。そうすることにより、霊性とはどういうものかの理解を深めさせます。あなたの中にある肉の思いを取り除く手助けをぜひ神様にいただきましょう。

ガラテヤ書5章19節に『肉の行いは明白であって』とパウロは記し、私たちが賛成します。肉の思いを持つ人は欲望のままに快楽を追求し、姦淫・不倫をし、汚れ、猥らなもので満ちています。その不品行の中心には神様以外のものを偶像化したり、魔術を取り入れたり、お酒を飲んだり、パーティーに明け暮れたりするなどの特徴を見ることができます。

私たちに一体何が求められているのか、もう一度考えて見ましょう。もっと核心を突いた質問があります。私たちは誰かを憎んだりしていませんか？ 喧嘩を売ったり、ひどく誰かをうらやましいと感じたり、はらわたが煮えくり返るほどの怒りを感じたり、自己中心的な野心を抱いたりしていませんか？ たくさんの人がこの世の中で人より一歩先んじるためには自己中心の野心が必要だ、と言います。

教会での会話はどうですか？ 誰かの豪華な家や、かっこいい車をうらやましがると話題で終わっていませんか？ 霊的であろうとすることは想像以上に難しいことかもしれません。

聖歌 549

祈り 御在天の父なる神様。私たちに与えてくださっているたくさんの「よいもの」に感謝します。私たちが欲するものと本当に必要なものを区別することができるように助けてください。肉的ではなく、さらに霊的な心を持つものとしてください。

イエス・キリストの名によって祈ります。アーメン。
ビリー・シルベリー
カリフォルニア州 ロサンゼルス

信仰によって

聖書朗読 ガラテヤ 3:1～11

聖書は、神が異邦人をその信仰によって義と認めてくださることを、前から知っていたので、アブラハムに対し、「あなたによってすべての国民が祝福される」と前もって福音を告げたのです。 ガラテヤ 3:8

人間関係は互いがどのくらい信頼できるかの能力によります。頼みを聞いてあげますと言った誰かが、そう言うおきながらあとでその約束が守れなかった、と言ってきたとしたら、なにか傷ついたような気分になります。最近、私の友人がアパートに引っ越しました。何人もの人が彼女の引越しの際には手伝うよ、と声をかけていたそうですが、実際引越しの当日はその人たちは来られなくなり、友人はすごく困った状況におかれました。(感謝なことに、期待していなかった人が手伝ってくれたので引越し作業は無事に終わりました)

創世記12章3節には、神様とアブラハムとのびっくりするような約束が記されています。すべての国が、アブラハムの子孫によって祝福を受けると、神は一介の族長に対して語ったのです。しかもその時点で、なんとアブラハムには子どもが居なかったのです。どうしてそのような言葉が現実になったのでしょうか？ 普通に考えればありえないことです。

アブラハムは神様の言葉が真実かどうか、生存中は見ることがありませんでした。しかし何世紀もたってキリストの弟子、パウロは神様の言葉は約束の通りに成就した、と書き記しました。イエス・キリストこそがアブラハムの子孫であり、このキリストによってすべてが成就したのです。地上の弟子たちはイエス・キリストを救い主と信じる信仰によって救われます。神様は約束を守られる方なので、信じるに値するのです。

讃美歌 270

祈り 親愛なる主よ。あなたが忠実であられる神であることを、約束を守られる神であることをいつも覚えていられますようにお助けください。
イエス・キリストの名によってお祈りします。アーメン。

ロバート・P・リー
コロラド州 デンバー

漁 恐 怖 症

聖書朗読 ビリビ 3:1~12

それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知ることのすばらしさのゆえに、いっさいのことを損と想っています。私はキリストのためにすべてのものを捨てて、それらを塵あくたと想っています。

ビリビ 3:8

息子のエリックは、私の夫マックスと一緒に何年もアラスカ海で鮭漁をしていました。エリックが大学に行ったので、私は主人をボートに一人きりにすまいと、一緒に漁に出ました。しかし夫のマックスにとっては何でもない荒海の波が、残念なことに私は大の苦手でした。ある日、私たちは湾内にて、マックスが漁に出るのにちょうどいい風が来るのを待っていました。その時、まだ波が少し荒れていたもので、私は漁に出るのを反対しました。夫は一呼吸すると、私に向かって「これから電話をして、君を陸まで連れて行ってくれるように頼むことにする」といい、私のために本当にそのようにしたのです。

安全な家の中で私は悩み、心配し、祈りました。夫が無事であるように、一人で漁をすることがどんなに恐ろしい気持ちであるかを想像しました。そして、夫を失望させてしまったことを後悔したのです。そしてやっとな彼は無事に戻ってきました。その出来事から、私はどんなに怖いと思っても夫と漁に出かけることにしました。

そして、私は想像します。神様が私のために働いてくださっているのに、恐れによって私が一人、家に戻ってしまったらどうなるだろうかと。私は神様と一緒に、神様の働きを共にする者、恐いと感じるときにも福音を語る者になりたいと思います。神様がその勇気をくださるのです。

讃美歌 333

祈り 神様。私にはあなたの福音を語るなければならぬときに、心の中におそれがあることを告白いたします。あなたの力強い平安と導きをください。あなたの約束を信じます。

キリストの御名によって祈ります。アーメン。

キャシー・ダウキング
アラスカ州 ケチカン

恐 れ る な

聖書朗読 ビリビ 4:2~9

そういうわけだから、・・・心配するのはやめなさい。

マタイ 6:31

最近、あるクラスで自分の好きな聖句とその理由を皆で分かち合う時間がありました。私の選んだところは有名・簡単なところでビリビ4章6~8節でした。理由? なんだろう?? 私は忙しい職場でずっと働き、大学でできる限りクラスを取り、週末には説教をし、時に片道100マイル(160キロ)走っています。

そのとき、私は当時の表現だとパニック発作に見舞われたようです。現在は不安障害と表現するかもしれませんが、とにかく、とても恐ろしい経験でした。呼吸がだんだん速くなり、心臓がバクバクしてもう自分は死んでしまってもおかしくない、という恐怖がありました。この障害のために私はお医者さんにかかり、治療を受け、処方箋をもらいました。いまでもこしその兆しがないわけではありません。

発作の間、私はビリビの箇所を思い出しました。私は祈り始め、神様にこの発作を乗り越えさせてくださるようお願いをしました。すると突然平安が私を包み、発作がもう二度と起こることはなかったのです。この出来事は実は30年以上も前のことです。不安なことや心配事をどうやって乗り越えるのか聞かれるときがありますが、私は日々みことばを読み、それを実行することを薦めています。

讃美歌 443

祈り 親愛なるお父様。どうかあなたが私たちを愛してください、私たちに恐れのある毎日ではなく、信仰の日々を歩んで欲しいと願っておられることを知ることができるよう。あなたの足元に重荷を下ろし、力強くそこからまた新たな歩みを始められますように導いてください。

イエス様の名前によって祈ります。アーメン。

セラーズ・S・クレイン・ジュニア
テネシー州 ヘンダーソンビル

声 を 上 げ な さ い

聖書朗読 Iテモテ 4:7~12

それから、イエスは彼らにこう言われた。「全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい。」

マルコ 16:15

イエス様は世界に出て行って福音を伝えなさい、といわれました。当然のことですが、私たち全員が宣教師になることは不可能です。しかし、周りの知人に語ることは誰にでもできます。私はそれでも福音を語ることに怖気づいてしまうことがよくあります。

私たちが卑怯さかじさを感じるのなら、自分の回心についてオープンに話すといいい、というアドバイスを説教中で聞いたことがあります。自分自身のことですから、回心の喜びを自信を持って話すことができます。心からあふれてくる言葉に身を任せることは福音を語る助けになります。

私の仕事は対一の会話を限られた空間で行う特別なものでしたから、なんでもそのようなすばらしい証のチャンスが与えられました。信仰や祈りの力について表現することはだんだん難しいことではなくなってきたのです。完全に私の言うことに同意するわけではありませんが、どの相手も私の信じるものや感じることに反対することはできないのです。一度扉を開けるとほかの人も私と同じように福音を分かち合うようになったのです!

適切な時を神様に求めることにより、神様はそのお膳立てをしてくださいます。神様の御力をおおいに利用しましょう。難しいことを可能にする神様が私たちを整え、適切なときに語る力をくださるよう、そして語る相手に聖霊が触れくださるようにお祈りしましょう。

讃美歌 224

祈り 主よ。あなたの大きな力が私とともにあることを忘れず、良き知らせを喜びを持って分かち合うことができるように助けてください。

御子の名によって祈ります。アーメン。

キャシー・ベドウ・キーナー
ペンシルバニア州 チャンパーズバーグ

あ の 少 女 に ブラ ウ ニ ー を あ げ な さ い

聖書朗読 ヘブル 5:7~14

あなたは熟練した者、すなわち、真理のみことばをまっすぐに説き明かす、恥じることのない働き人として、自分を神にささげるよう、努め励みなさい。

IIテモテ 2:15

2歳になる私の孫は、最近、教会学校でユダヤ人少女であったエステルが女王となり、民を救った話を先生から聞いてきたようです。そのお話のことを私に教えようと、義理の娘は孫に向かって「エステル女王が頭は何をかぶっていたか、おばあちゃんに話してごらんなさい」といいました。孫は私の顔を見て、叫びました。「ブラウニー! [=チョコレートのお菓子]」(女の子はたいいていチョコレートに目がないのです)。私たちはエステル王妃が頭にブラウニーではなく、王冠(クラウン)をかぶっていたことを承知しています。しかし、この世の中の道理をまだ学んでいない2歳児にとってはブラウニーが頭を飾るものだ、と思うことは至極当然のことです、それをおかしい、と大人がいうことはできません。

※ちなみに、「ブラウニー」と「クラウン」は発音・綴りがやや似ています

赤ちゃんが神様のことについて学び、理解するには段階を踏まなければならぬことは確かです。そして、神様について成熟することはもっと大切なことです。神様の洞察力を成熟させることは私たち自身のためだけでなく、神様の思いを生活の中に見出すことでもあり、さらにその成長はイエス・キリストを本当に必要としている人のため私たちが大いに役立つものとなるのです。

神様の価値観とは・・・もし、私たちが神様の言葉を自分の中で熟成させなければ私たちは周りの人々に「王冠」という正解ではなく「ブラウニー」という答えをしてしまうかもしれません。ですから、毎日神様の知識を更新し、正しい神様のイメージを成長させましょう。

讃美歌 第二篇 59

祈り 最も敬愛するお父様。あなたの美しい命の言葉を感謝いたします。私たちの心にあなたのみことばの必要をもっと感じさせてください。そして、この地上での命の目的を悟らせてください。このもっともすばらしい、聖なる本、聖書に感謝します。

御子キリストの名によって祈ります。アーメン。

キャシー・R・メレディス
テキサス州 フォートワース